



TITLE:

参考文献、京都大学構内遺跡調査 要項昭和53年度

AUTHOR(S):

CITATION:

参考文献、京都大学構内遺跡調査要項昭和53年度. 京都大学構内遺跡
調査研究年報 1979, 1978: 81-92

ISSUE DATE:

1979-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227372>

RIGHT:

参 考 文 献

- 石田志朗・中村徹也 1972年『京都大学理学部構内遺跡発掘調査の概要』。
- 泉拓良 1977年「京都大学植物園遺跡」『仏教芸術』115号。
- 1978年「京都大学北部構内の地形復原——縄文時代から弥生時代——」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和52年度』。
- 伊藤久嗣 1968年「中世納骨堂の一形態——奈良市中町大神家骨堂——」『帝塚山考古学』No. 1。
- 井上満郎 1976年「平安京年表集成Ⅰ」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』。
- 井上満郎・西山恵子 1977年「平安京年表集成Ⅱ」『平安京跡 京都市埋蔵文化財年次報告1976—Ⅰ』。
- 上原真人 1978年a「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』第13・14号。
- 1978年b「第4章考察」『京都大学埋蔵文化財調査報告第1冊——京大農学部遺跡 BG36区——』。
- 碓井小三郎 1915年「京都坊目誌(上京之部)坤」『京都叢書』所収。
- 宇野隆夫 1978年「京大病院遺跡出土の土器——古代から中世——」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和52年度』。
- 梅原末治 1923年「京都帝国大学農学部敷地ノ石器時代遺跡」『京都府史蹟勝地調査会報告第5冊』。
- 1935年「京都北白川小倉町石器時代遺跡調査報告」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告第16冊』。
- 1936年「摂津阿武山古墓調査報告」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告第7輯』。
- 1939年「北白川廃寺跡」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告第19冊』。
- 円勝寺発掘調査団 1971年「円勝寺の発掘調査(上)」『仏教芸術』82号。
- 1972年「円勝寺の発掘調査(下)」『仏教芸術』84号。
- 大津市教委(大津市教育委員会) 1958年『大津市南滋賀遺跡調査概報』。
- 小野山節・都出比呂志 1973年『高槻市安満遺跡の条里遺構』。
- 梶川敏夫 1977年a「得長寿院跡推定地発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1976—Ⅱ』。
- 1977年b「法勝寺跡」『仏教芸術』115号。
- 梶川敏夫・渡辺和子 1977年「尊勝寺跡推定地第Ⅲ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1976—Ⅱ』。
- 川上貢 1977年「京都大学構内における史跡の文献的考察」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和51年度』。
- 北村四郎・村田源 1961年『原色日本植物図鑑』草本編(中)。
- 木村捷三郎・畑美樹徳・上原真人 1974年「京都市動物園爬虫類館建設工事に伴う法勝寺跡発掘調査報告」『京都市埋蔵文化財年次報告1974—Ⅱ』。

京大調査会(京都大学農学部構内遺跡調査会・京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会)

1977年『京都大学構内遺跡調査研究年報—昭和51年度—』。

京大埋文研(京都大学埋蔵文化財研究センター)

1978年 a 『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和52年度』。

1978年 b 『京都大学埋蔵文化財調査報告第1冊——京大農学部遺跡 BG36 区——』。

京都府教委(京都府教育委員会) 1978年「吉田近衛町遺跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 1978』。

京文研(京都市埋蔵文化財研究所) 1978年『平安京跡発掘調査概報』『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978-II』。

隈昭志・野田拓治編 1973年『尾窪』『熊本県文化財調査報告 第12集』。

工楽善通・藤村泉 1973年『尊勝寺跡発掘調査概報』。

佐々木英夫 1978年「平安京造営尺寸法の有効数字について」『古代文化』第30巻第6号。

佐原真 1960年「第2編第1章第3節弥生式時代」『彦根市史』上冊。

1968年「P1. 50 琵琶湖地方」『弥生式土器集成本編2』。

滋賀県教委(滋賀県教育委員会) 1971年『国道8号バイパス関連遺跡調査報告書』。

島津義昭 1976年「熊本県の考古学——最近の発掘調査とその成果——」『九州考古学』No. 52。

島津貞彦 1924年「京都市北白川町発見の石器時代遺跡」『考古学雑誌』第14巻第5号。

杉原莊介・大塚初重 1961年「京都府深草遺跡」『日本農耕文化の生成』。

杉原莊介・岡本勇 1961年「愛知県西志賀遺跡」『日本農耕文化の生成』。

杉山信三 1954年「吉田寺について」『史跡と美術』242号。

1955年「洛東の円覚寺について」『日本建築学会研究報告』34号。

1957年「後高倉院の御葬地、北白川について」『史跡と美術』278号。

1962年『院の御堂と御所——院家建築の研究——』。

杉山信三・岡田茂弘 1961年「尊勝寺跡発掘調査報告」『奈良国立文化財研究所学報第10冊』。

杉山信三・梶川敏夫 1975年『法勝寺金堂跡発掘調査概要』『京都市埋蔵文化財年次報告1974—II』。

たなかしげひさ 1976年「北白川廃寺は粟田寺と官寺円覚寺の複合遺跡」『史跡と美術』467号。

Tsukada, M. 1972年 “The history of Lake Nojiri, Japan” Conn. Acad. Art. Sci. 44, 339–365。

津田菊太郎 1978年『平安京、都城域 起源と二元割域の研究』。

角田文衛 1970年「北白川廃寺の問題」『日本古文化論考』。

同志社調査会(同志社大学校地学術調査委員会)

1977年『同志社キャンパス内出土の遺構と遺物』『同志社大学校地学術調査委員会資料 No. 8』。

1978年『常盤井殿町遺跡発掘調査概報——同志社女子大学心和館増築地点の調査——』『同志社大学校地学術調査委員会調査資料 No. 12』。

中村徹也 1973年『京都大学農学部総合館周辺埋蔵文化財発掘調査の概要』。

- 1974年 a 『京都大学農学部総合館北棟建設予定地内埋蔵文化財発掘調査の概要Ⅰ』。
- 1974年 b 『京都大学理学部ノートバイオロン実験装置室新営工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要』。
- 1975年 『京都大学農学部総合館北棟建設予定地内埋蔵文化財発掘調査の概要Ⅱ』。
- 奈文研(奈良国立文化財研究所) 1976年『平城宮発掘調査報告Ⅶ』『奈良国立文化財研究所学報第26冊』。
- 浪貝毅 1978年『法性寺跡』『京都市埋蔵文化財年次報告1976-Ⅲ』。
- 浪貝毅・梶川敏夫編 1976年『北白川廃寺塔跡発掘調査報告』。
- 梶崎彰一 1967年「5 墳墓」『日本の考古学Ⅶ』。
- 1975年『日本の陶磁 古代中世篇』第2巻。
- 西川幸治 1972年『日本都市史研究』。
- 西田直二郎 1925年「法勝寺遺址」『京都府史蹟勝地調査会報告』第6冊。
- 林屋辰三郎 1960年「法勝寺の創建」『歴史における芸術と社会』。
- 広岡公夫 1970年「考古地磁気法による年代測定とその試料採取について」『考古学と自然科学』第3号。
- 彦藤嘉彦 1967年『味噌粕岩遺跡第2次調査報告』。
- 福山敏男 1943年「六勝寺の位置について」『美術史学』81・82号。福山敏男『日本建築史研究』1968年所収。
- 1969年「中尊寺金色堂の性格——平安時代の葬礼史からみる——」『仏教芸術』72号。
- 1975年「白河院と法勝寺の歴史」『法勝寺跡』。
- 1977年「室町時代の神社——特に吉田社と斎場所」『日本の美術』第129号。
- 文化庁監修 1976年「考古Ⅱ」『重要文化財』29。
- 真壁忠彦・真壁霞子 1966年「備前焼研究ノート(1)——備前焼の成立——」『倉敷考古館研究集報』。
- 三重県文化財連盟・日本道路公団名古屋支社
- 1970年「東庄内B遺跡」『日本道路公団 東名阪道路埋蔵文化財調査報告』。
- 横山浩一・佐原真 1960年『京都大学文学部博物館考古学資料目録』第1部。
- 米倉二郎 1956年「山城の条里と平安京」『史林』第39巻第3号。
- 六勝寺研究会 1972年『延勝寺跡の発掘調査』。
- LeRay G. Holm, et al. 1977年 “The World’s Worst Weed” The Univ. press Hawaii, Honolulu.
- 渡辺久雄 1970年『条里制の研究——歴史地理学的考察——』。

京都大学構内遺跡調査要項

京都大学埋蔵文化財研究センター要項

- 第1条 京都大学に埋蔵文化財研究センター(以下「センター」という)を置く。
- 第2条 センターは、京都大学敷地内の埋蔵文化財についての調査研究及びその保存のため必要な業務を行なう。
- 第3条 センターにセンター長を置く。
- 2 センター長は京都大学の専任教授をもって充てる。
- 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長は、センターの所務を掌理する。
- 第4条 センターに、必要に応じて、助教授、助手その他の職員を置く。
- 第5条 センターに、調査研究及び保存に関する業務を処理するため、研究部を置く。
- 2 研究部に主任を置き、前条の教官をもって充てる。
- 3 主任は、研究部の業務をつかさどる。
- 第6条 センターに、センターの事業に関する基本的計画、人事その他管理運営に関する重要事項を審議するため、運営協議会を置く。
- 2 運営協議会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
- (1) センター長。
- (2) センターの研究部の主任。
- (3) 前2号以外の学識経験者のうちから総長の委嘱した者、若干名。
- (4) 事務局長及び施設部長。
- 3 センター長は、運営協議会を招集し、議長となる。
- 4 前各項に規定するもののほか、運営協議会の運営に関し必要な事項は、運営協議会が定める。
- 第7条 この要項に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

センター長	樋口隆康(文学部教授)	運営協議会委員	立山義雄(施設部長)
運営協議会委員	池田次郎(理学部教授)	研究部主任	泉 拓良(文学部助手)
//	石田志朗(理学部助教授)	研究部研究員	宇野隆夫(文学部助手)
//	川上 貢(工学部教授)	//	岡田保良(工学部助手)
//	西川幸治(工学部教授)	//	吉野治雄(施設部技術補佐員)
//	足利健亮(教養部助教授)	事務室	大八木邦雄(施設部事務官)
//	泉 拓良(文学部助手)	//	梅川厚子(施設部技術補佐員)
//	大塚喬清(事務局長)		

京都大学構内遺跡調査会規約

- 第1条 この会は、京都大学構内遺跡調査会(以下「調査会」という。)と称し、京都大学の委託により同大学構内における建築物新営工事等に伴い必要な敷地内の遺跡調査を行なうことを目的とする。
- 第2条 調査会は、事務所を京都市左京区北白川西町財団法人阪本奨学会内に置く。
- 第3条 調査会は、第1条の目的を達成するために次の事業を行なう。
- (1) 京都大学の委託により行なう当該敷地内の埋蔵文化財についての発掘調査。
 - (2) 前号の調査により出土した埋蔵文化財の保存、管理に関する事項の審議。
 - (3) 埋蔵文化財の調査に関する発掘調査概要報告書の作成。
 - (4) その他必要とする事項。
- 第4条 調査会に次の役員を置く。
- (1) 会長1名。
 - (2) 委員
 - イ 京都大学の学識経験者若干名。
 - ロ 新営工事等の敷地の属する京都大学の部局の長または部局附属施設の長。
 - ハ 新営工事等の敷地の所在する地域の文化財保護行政当局の推薦する者若干名。
 - (3) 監事若干名。
- 2 会長は、前項第2号イの委員の推薦する者とする。
 - 3 委員及び監事は、会長が委嘱する。
 - 4 第1項第2号ロ及びハの委員は、当該敷地内の遺跡調査に関する委員としての任期が終わったときは、退任する。
- 第5条 会長は、調査会を代表し、業務を総括する。
- 2 委員は、委員会を構成し、委員会の議決に基づく業務を執行する。
 - 3 監事は、調査会の会計を監査する。
- 第6条 委員会は、会長及び委員をもって組織する。
- 2 委員会は、会長が招集し、議長となる。
 - 3 委員会は、新営工事等の敷地が京都市以外の地域にある場合で、必要と認めたときは、部会を置くことができる。
- 第7条 第3条の発掘調査の実施に当たるため、調査会に調査班を置く。
- 2 調査班長、調査員及び調査補助員をもって組織する。
 - 3 調査班長は、委員会の議に基づき会長が委嘱する。
 - 4 調査員及び調査補助員は、調査班長の推薦により会長が委嘱する。
- 第8条 調査会の事務を処理するため、調査会に事務局を置く。
- 2 事務局に職員若干名を置く。
 - 3 職員は、会長が任免する。
- 第9条 調査会の経費は、京都大学から支出される調査委託費をもって充てる。

第10条 調査会は、4月1日に始まる年度ごとに、事業報告書及び収支決算書を作成し、監事の監査を経て、年度終了後3月以内に委員会の承認を受けるものとする。

第11条 この規約に定めるもののほか、調査会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

会長 亀井節夫(理学部教授)
 委員 樋口隆康(文学部教授)
 // 西川幸治(工学部教授)
 // 西村 進(教養部助教授)
 // 泉 拓良(埋文研助手)
 // 小野真海(事務局庶務部長)

規約第4条1項(2)ハ 中山忠之(京都市文化観光局文化財保護課長)

規約第4条1項(2)ロ 坂本慶一(農学部長)

// 林忠四郎(理学部長)

監事 西村利雄(施設部企画課長)

// 位ノ花一郎(理学部事務長)

// 鹿野英夫(農学部事務長)

事務局員 大八木邦雄(施設部事務官)

// 梅山厚子(施設部技術補佐員)

// 浜崎絹子(調査会事務員)

// 川野美栄子(調査会事務員)

調査班長・主任 泉拓良, 宇野隆夫, 岡田保良, 吉野治雄

調査員 出田和久, 清水朱美, 田中はる代, 津隈久美子, 中堀謙二, 浜崎一志

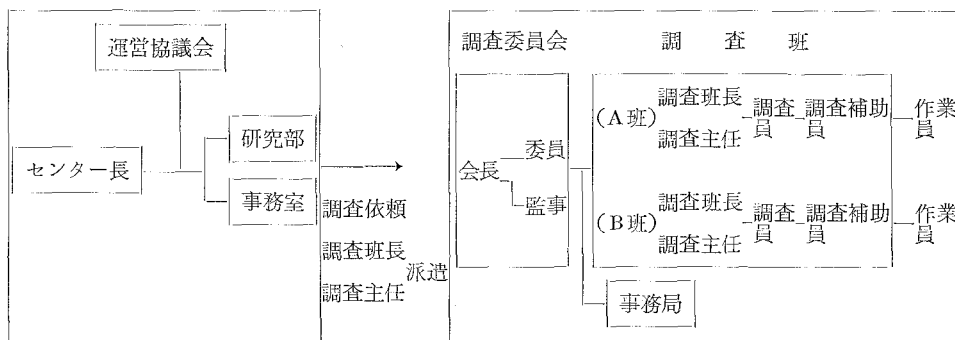
調査補助員 綱谷克彦, 井上豊春, 岩崎仁, 上野講子, 大野富子, 岡田真紀, 小泉隆司, 中内均, 西野素生, 原充, 藤沢かおる, 藤村早苗, 藤原喜信, 藤原高志, 矢野智子, 山口理子

作業員 赤沢俊男, 井口繁司, 池田イシ, 五十棲春一, 岩波幸太郎, 木村栄三郎, 小寺末之, 小原祥一, 佐藤初枝, 榎木きぬ子, 榎木さの, 榎木マツ, 中島まつえ, 中村コト, 中村皓子, 西村イシ, 橋本庄次, 橋本俊夫, 橋本敏治, 福井長治, 福田文治, 藤木恵美子, 藤木さの, 堀内千代, 森田勝晴, 安田史郎, 安田秀男, 吉田龍太郎

職名は就任当時のものを用い、京都大学の職員に関しては大学名を省略した。

京都大学埋蔵文化財研究センター

京都大学構内遺跡調査会



京大医学部遺跡 A O 18 区調査班

所在地 京都市左京区吉田橋町(図版1-41)
工事名 医学部基礎医学研究室実験室新営
発掘期間 昭昭和52年11月1日～昭和53年2月28日
面積 約 1200m²
調査班長・主任 泉拓良, 吉野治雄
調査員 出田和久, 清水朱美, 田中はる代
調査補助員 9名
作業員 24名

京大理学部遺跡 B E 29 区調査班

所在地 京都市左京区北白川追分町(図版1-54)
工事名 理学部宇宙物理学科等校舎新営
発掘期間 昭和53年8月1日～同10月7日
面積 約 500m²
調査班長・主任 岡田保良, 吉野治雄, 宇野隆夫
調査員 浜崎一志
調査補助員 3名
作業員 17名

京大農学部遺跡 B G 32 区調査班

所在地 京都市左京区北白川追分町(図版1-55)
工事名 農学部農林生物学科硝子温室改築
発掘期間 昭和53年9月1日～9月30日
面積 約 100m²
調査班長・主任 泉拓良, 宇野隆夫
調査員 中堀謙二, 津隈久美子
調査補助員 1名
作業員 6名

京大農学部遺跡 B G 31 区調査班

所在地 京都市左京区北白川追分町(図版1-56)
工事名 理学部物理学科校舎新営
発掘期間 昭和53年11月1日～同12月末日現在実施中
面積 約 650m²
調査班長・主任 泉拓良, 宇野隆夫
調査員 田中はる代

調査補助員 2名

作業員 8名

教養部エレベーター新営予定地試掘調査

所在地 京都市左京区吉田二本松町(図版1-48 a・48 b)

試掘期間 昭和52年12月12日～同12月21日

面積 80㎡(8 m×5 m 2ヶ所)

担当者 宇野隆夫

白河北殿跡比定地 A A 18 区試掘調査

所在地 京都市左京区東竹屋町(図版1-49)

試掘期間 昭和53年2月20日～3月15日

面積 40㎡(2 m×10 m 2ヶ所)

担当者 岡田保良

本部構内排水ポンプ新営予定地試掘調査

所在地 京都市左京区吉田本町(図版1-50 a・50 b)

試掘期間 昭和53年2月28日～同3月6日

面積 8㎡(2 m×2 m 2ヶ所)

担当者 宇野隆夫

工学部電気工学科等校舎新営予定地試掘調査

所在地 京都市左京区吉田本町(図版1-51 a～51 d)

試掘期間 昭和53年7月4日～同7月11日

面積 16㎡(2 m×2 m 4ヶ所)

担当者 岡田保良

環境保全センター重金属処理装置室新営予定地試掘調査

所在地 京都市左京区吉田本町(図版1-52 a・52 b)

試掘期間 昭和53年7月12日～同7月14日

面積 8㎡(2 m×2 m 2ヶ所)

担当者 岡田保良

病院西構内電気管理設予定地試掘調査

所在地 京都市左京区吉田下阿達町(図版1-53 a～53 f)

試掘期間 昭和53年7月14日～同7月18日

面積 24㎡(2 m×2 m 6ヶ所)

担当者 宇野隆夫

第5表 京都大学構内遺跡調査の歴史

(地点は図版1を参照，文献中「埋」は京
(大埋文研，「調」は京大調査会をさす)

年 度	遺 跡 名	地 点	担 当 者	調 査 の 種 類	面 積 (m ²)	造 構	遺 物	文 献	備 考
大正12年	農 学 部	1・2	浜 田 耕 作	表採・試掘			縄文土器，石器他	梅原23，島田24	
13年	農 学 部	不明	藤本理三郎				石 棒	横 山・佐原60	
昭和9年	大阪府阿武山古墳		梅 原 末 治	発 掘			乾漆棺，玉飾枕他	梅原36	
10年	北白川小倉町		梅 原 末 治				縄文土器，石器他	梅原36	
31年	農 学 部	3	羽 館 易	採 集			縄 文 土 器		
46年	農 学 部	4	石 田 志 朗	採 集			弥 生 土 器		
47年	農 学 部	5		採 集			石 棒		
	大阪府安満		小 野 山 節 都出比呂志	事前発掘	1500	条里の溝	弥生土器，石器他	小野山・都出73	建物をずらし条里の溝を保存
	追分地蔵	6	石 田 志 朗 中 村 徹 也	事前発掘	600		弥生土器，石器他	石 田・中村72	
	教 養 部	7	藤岡謙二郎	工事中採集・実測			縄文土器他	藤岡73	
48年	農 学 部	8	中 村 徹 也	事前発掘		瓦 溜	縄文土器，瓦(平安)他	埋78b	瓦溜埋戻し
	農 学 部	9	中 村 徹 也	事前発掘	600		縄文土器，土師器他	中村73	
	農 学 部	10	中 村 徹 也	事前発掘	40		縄文土器他		
	植 物 園	11a	中 村 徹 也	事前発掘	400	縄文後期甕棺・配石遺構	縄文土器他	中村74b，泉 77	甕棺・配石遺構の移築復原を決定
49年	農 学 部	12	中 村 徹 也	事前発掘	800		縄文土器他	中村74b	
	植 物 園	11a～d	中 村 徹 也	追加調査		甕棺・配石遺構	縄文土器他	中村74b	甕棺・配石遺構取上げ
	農 学 部	13	中 村 徹 也	事前発掘	800		縄文土器他	中村75	
50年	教 養 部	14	小 野 山 節 中 村 徹 也	事前発掘	750		縄文土器他		
51年	教 養 部 AL24区	15	泉 拓 良	立 合		瓦溜，溝	弥生土器，瓦(平安)他	調77	工事を中断して一部発掘，遺跡発見届提出

年 度	遺 跡 名	地 点	担 当 者	調査の 種 類	面積 (㎡)	遺 構	遺 物	文 献	備 考
昭和51年	農 学 部 BE 33 区	16 a～h	泉 拓 良	事前発掘	900	縄文時代 土壇、不 定形ピット群、井 戸、集石 ピット、 溝他	縄文土器、 須恵器、土 師器、瓦他	調77	
	北 部 BK 30 区	17	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	病 院 AE 15 区	18	泉 拓 良	試 掘	20	ピ ッ ト	土師器、瓦 他	調77	工事中断 遺跡発見届 提出
	病 院 AE 15 区	19	岡 田 保 良	事前発掘	2200	池、溝、 柱穴、井 戸、土器 溜他	土師器、陶 磁器、瓦他	調77	
	病 院 AH17 区	20	岡 田 保 良	試 掘			土師器、瓦 他	調77	工事予定地 の発掘調査 決定
	北 部 BF 28 区	21	泉 拓 良	試 掘				調77	工事の時に 立合
	本 部 AV 28 区	22	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	和歌山県 瀬 戸		中 村 友 博	試 掘			縄文土器、 弥生土器他	調77	工事予定地 の一部発掘 調査決定
	奈良県宇 陀郡大宇 陀町カタ ブキ		大 宇 陀 町 教育委員会	遺跡確認				調77	遺跡ではな い
	本 部 AV 27 区	23	泉 拓 良	試 掘	30		土 師 器(鎌 倉以降)他	調77	工事の時に 立合
	本 部 AV 27 区	24	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	北 部 BE 34 区	25	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	北 部 BD 29 区	26	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	北 部 BF 28 区	27	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	病 院 AI 18 区	28 a～c	泉 拓 良	試 掘	30	溝	土 師 器(平 安以降)他	調77	一 部 を 発 掘、その他 を立合に決 定
	植 物 園 BD 35 区	29	吉 野 治 雄	保 存				調77	甕棺・配石 遺構を移築 復原
	本 部 AV 23 区	30	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	本 部 AT 25 区	31	泉 拓 良	立 合				調77	工事続行
	本 部 AU 29 区	32	泉 拓 良	立 合		ピ ッ ト	土 師 器(鎌 倉以降)他	調77	工事続行

年 度	遺 跡 名	地 点	担 当 者	調 査 の 種 類	面 積 (m ²)	遺 構	遺 物	文 献	備 考
昭和51年	本 部 区 AZ 28	33	泉 拓良	立 合			縄文土器細片		工事続行
	病 院 区 AH17	34	泉 拓良	事前発掘	200	溝, 井戸, 築石, ピット他	土師器, 陶磁器, 瓦(平安以降)他	埋78 a	
	教 養 部 区 AS 23	35	吉 野 治雄	試 掘	10	溝	縄文土器, 須恵器(奈良)他	埋77	工事の時に立合
	北 部 区 BJ 33	36 a・b	宇 野 隆夫	試 掘	10		縄 文 土 器	埋77	
	医 学 部 区 AP 18	37	泉 拓良	立 合			土 師 器(平安以降)他	埋77	工事続行
	病 院 区 AI 18	38 a～c	泉 拓良	立 合		石 敷	土 師 器(室町以降)他	埋77	一部実測, 工事続行
	和歌山県瀬戸		丹 羽 佑一	事前発掘	300	縄文時代土墳他	縄文土器, 石器, 弥生土器他	埋78 a	
昭和52年	病 院 区 AF 14	39	岡田 保良 宇 野 隆夫	事前発掘	800	護岸, 井戸, 溝他	土師器, 陶磁器, 瓦他	埋78 a	
	医 学 部 区 AO 18	40 a～c	泉 拓良 吉 野 治雄	試 掘	10	鎌倉時代土墳	土師器, 陶磁器他	埋78 a	工事予定地の発掘調査を決定
	医 学 部 区 AO 18	41	泉 拓良 吉 野 治雄	事前発掘	1200	溝, 井戸, 土器溜他	土師器, 陶磁器, 瓦他	埋78 a	
	北 部 区 BF 29	42 a～f	泉 拓良 吉 野 治雄	試 掘	50		縄文土器, 植物遺体他	埋78 a	
	北 電 気 部 管 g～l	42	吉 野 治雄	試 掘	50		須恵器, 土師器他	埋78 a	
	北 電 気 部 管 a～c	43	吉 野 治雄 宇 野 隆夫	立 合		溝, ピット	須恵器, 土師器他	埋78 a	実測・遺物採集の後, 工事続行
	本 給 水 部 管	44	宇 野 隆夫	立 合				埋78 a	工事続行
	本 ガ ス 部 管	45	宇 野 隆夫	立 合				埋78 a	工事続行
	医 学 部 区 カ ス	46	岡田 保良	立 合			土師器他	埋78 a	工事続行
	病 院 給 水 部 管	47	岡田 保良	立 合				埋78 a	工事続行
	教 養 部 区 AQ 23・AN 23	48 a・b	宇 野 隆夫	試 掘	80	溝	弥生土器, 土師器, 瓦(平安後期)他	埋78 a	

年 度	遺 跡 名	地 点	担 当 者	調査の 種 類	面積 (m ²)	遺 構	遺 物	文 献	備 考
昭和53年	白河北殿 比定地区 AA18	49	岡田保良	試掘	40	溝	瓦, 土師器, 陶磁器	埋79	遺跡確認調査
	本 部 AT27 区	50 a・b	宇野隆夫	試掘	8	道路 (側溝)	須恵器	埋79	工事予定地の 発掘調査決定
	本 部 AW28 区	51 a～d	岡田保良	試掘	16	路面 (白川道)	土師器, 陶 磁器	埋79	工事予定地の 発掘調査決定
	本 部 AY25 区	52 a・b	岡田保良	試掘	8			埋79	
	病 院 電 気 管	53 a～f	宇野隆夫	試掘	24			埋79	
	理 学 部 BE 29 区	54	岡田保良 吉野治雄 宇野隆夫	事前発掘	500	方形周溝 墓, 火葬 塚	弥生土器, 土師器, 瓦	埋79	火葬塚と方 形周溝墓を 現地保存
	農 学 部 BG 32 区	55	泉 拓良 宇野隆夫	事前発掘	100	土坑, 溝	縄文土器, 土師器, 陶 磁器, 瓦	埋79	
	農 学 部 BG 31 区	56	泉 拓良 宇野隆夫	事前発掘	650				現在実施中
	本 部 AW28 区	57	岡田保良 吉野治雄	事前発掘	500				実施予定
	医 学 部 AN18 区	58	宇野隆夫 岡田保良 吉野治雄	立 合		建物, 井 戸	土師器, 陶 磁器, 瓦	埋79	発掘・実測 の後, 工事 続行
	京 都 府 丹 波 町		岡田保良	立 合				埋79	工事続行
	滋 賀 県 高 島 町		岡田保良 高島町 教育委員会	立 合				埋79	工事続行
	京 都 府 宇 治 市		宇野隆夫	立 合				埋79	工事続行
	東 南 ア 研 究 区 AK10	59	岡田保良	立 合				埋79	工事続行
	本 部 AY22 区	60	泉 拓良	立 合		高野川旧 河道		埋79	実測後, 工 事続行
	北 ガ ス 部 管	61	泉 拓良	立 合			石仏, 石塔 婆	埋79	工事続行
	教 養 部 ガ ス 管	62	泉 拓良	立 合				埋79	工事続行
	病 院 電 気 管	63	泉 拓良	立 合				埋79	工事続行
	医 学 部 電 気 管	64	吉野治雄	立 合		井戸, 溝	弥生土器, 土師器, 陶 磁器	埋79	発掘・実測 の後, 工事 続行